

令和8年度第2回岡崎市学校適正規模検討委員会 会議録

1 開催日時

令和8年9月17日（木） 10時00分から

2 開催場所

岡崎市役所福祉会館 2階 201号室

3 議題

学級規模（学級数）に関する考え方

- (1) 国の手引きの概要
- (2) 他市の方針等
- (3) 岡崎市の小規模校・過小規模校
- (4) 次期学習指導要領から見える学びの姿

4 出席委員

土屋 武志 （愛知教育大学名誉教授）
野田 光宏 （岡崎市社会教育審議会会長）
本間 徹 （岡崎市総代会連絡協議会副会長）
大河内 廣之 （岡崎市学区社会教育委員長連絡協議会会長）
天野 晃明 （岡崎市PTA連絡協議会会計）
安藤 眞樹 （岡崎市中学校長会庶務）
加藤 環 （岡崎市小学校長会副会長）
村井 ちる子 （市民公募委員）

5 傍聴者

2名

6 説明のために出席した職員

教育部長	松澤 真由美
教育政策課長	鈴木 浩文
教育政策課副課長	渋谷 文彦
学校指導課指導管理係係長	鈴木 崇之
教育政策課総務政策係係長	早川 喜晴

7 議事の要旨

学級規模（学級数）に関する考え方

- (1) 議題 国の手引きの概要

(事務局) 事務局より国の手引きの概要について説明。

(委員長) 第1回の委員会において、本市の児童生徒数が減少していく見込みということが示され、議論を進めているところですが、文部科学省から「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が改定されたということで、事務局より資料の説明がありました。手引きの表紙にもあるとおり、少子化に対応した活力ある学校づくりに向けてという趣旨ですので、子どもにとって良い教育環境という点で議論を進めます。

(委員) 学級数が少ないことによるデメリットの説明がありましたが、メリットについては、学校は子どもたちに発信しているのでしょうか。

(事務局) 1学級における子どもの数が少なければ、教師が一人一人を見る時間が増えるというのはメリットであり、小規模特認校制度の紹介でも示されています。

(委員) 例えば、英語教育について、教師が子どもに細かく対応できれば、すぐく上達すると思います。特色としてその学校のいいところを作ること、将来的な地域の評判にもつながるのではないのでしょうか。

(委員) 資料の中で、小規模校では行事の教育効果が下がるということが挙げられています。実際には違った一面もあって、例えば、学芸会において、大規模校ではセリフが少ししか与えられないことがあります。小規模校ではたくさんセリフが与えられるという見方もできます。他にも安全性の面や地域との密着性等メリットはたくさんあります。

地域に居住してもらうことのハードルが高く、少人数で授業をしていることへの不安感を持つ父母世代もいれば、小規模でも学校は残してほしいという祖父母世代もいて、考え方に違いがあります。

(委員長) 文部科学省は少人数の学び合いの重要性を強調しています。全国学力・学習状況調査が毎年行われていて、少人数で対話しながら学習している学校は成績が良いという相関関係があり、一方的に押し付けられる学びではなくて、自分たちで考えを言い合ったり、工夫したりする学習が推奨されています。しかし、小規模校では人間関係が固定化し、多様な意見が出にくい、男女の比率が極端になるという教育上の課題も挙げられます。

手引きの「おわりに」には、学校統合により魅力のある学校づくりを行い、地域の活性化を図ることを選択する場合や、小規模校のメリットの最大化やデメリットの克服を図りつつ、学校の選択をする場合等の複数の選択があることが挙げられており、適正化が直ちに小規模校を無くすということではない点を念頭に進めていきます。一方でクラス替えができない等の課題もありますので、課題解決のために統合をする場合でも、地域にとって望ましくない方向に進まないよう、議論します。

(2) 議題 他市の方針等

(事務局) 事務局より他市の方針等について説明。

(3) 議題 岡崎市の小規模校・過小規模校

(事務局) 事務局より岡崎市の小規模校・過小規模校について説明。

(4) 議題 次期学習指導要領から見える学びの姿

(事務局) 事務局より次期学習指導要領から見える学びの姿について説明。

(委員) 他市の方針等について、その自治体を挙げた基準はありますか。

(事務局) 愛知県内において、適正規模の検討をしている自治体を事例として挙げました。

(委員) 他市が計画を立てる際に、データをもとにしたのか、委員会のような議論をもとにしたのか等の具体的な情報はありますか。

(事務局) 現時点では分かりかねます。

(委員長) 事例として、事務局で調査をお願いいたします。

(委員) 複式学級のある学校については、児童生徒数を増やさないことには根本的な解決にはならないと思っています。また中学校においては、9教科それぞれの教員を確保することが難しく、小学校とは異なる課題もあります。小中を一つとする義務教育学校の設立も課題解決につながるかもしれませんが、子どもたちが岡崎で勉強したことを誇りに思える教育環境が大事になります。

過去に額田地区の小学校の統合もありましたが、地域住民の心情も踏まえて検討してほしい。

(委員長) 地域への提案方法も様々あると思います。過去の事例があり、どう解決して、地域の特色を出していくかというストーリー性も大事だと思います。

(委員) 今後の推計で児童生徒数は減少見込みですが、大規模校における学区選択制を取り止める等の検討はありますか。

小規模特認校制度について、共働きで送迎ができず制度の利用をあきらめたという事例を聴きました。何か対応策はありませんか。

(事務局) 学区選択制を取り止めることについて、検討は現在していません。

小規模校特認校制度について、子どもたちの安全を考えることが最重要と考えています。具体的な対応策はありませんが、御意見として承ります。

(委員) 資料で示される学級数は通常学級の数で間違いないですか。

(事務局) お見込みのとおりです。

(委員) 適正規模を検討する際に、複式学級のある学校は統廃合に限らないものの、何かしらの対応策を講じることになります。地域住民の意見も父母世

代と祖父母世代で二分化していて、様々な意見があります。

(委員) 小規模校のデメリットが挙げられましたが、逆に強みにならないかと考えると次の手立てにつながると思います。山の学習を共同で実施したり、小規模の学校同士で交流したり、保護者や地域と密着した活動もあり、地域の特色にもなっていると思います。地域ごとに異なる文化があるということも考慮していただきたい。

(委員長) そうしたメリットを残せるよう議論を進めます。

(委員) 教育委員会だけで検討するのではなく、市長部局も含めた環境作りをしていただきたい。地方の住環境を整える等、岡崎市全体で検討していただきたい。コミュニティスクールが開始しているが、地域住民がいなければどうにもなりません。

(委員) 地元の保育園が無くなってしまったという声を聴きました。預ける場所がないと子どもがいなくなり、そこに住む人もいなくなります。

(委員長) 他市では小規模による人間関係の固定化を懸念し、別の地区に移住したという話も聴きました。

本日、文部科学省の手引きについて理解し、議論をいただきました。

その他 今後の予定について

(事務局) 事務局より今後の予定について説明。